

## 選考委員長講評

梅光学院大学 学長 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で7回目になります。応募された団体は、37団体でした。1次選考では各分野を念頭におきながら、15団体に絞り、2次選考では優秀賞を4団体選びましたが、今年は福祉分野の団体が甲乙つけがたく、1つに絞ることができませんでしたので、2つの団体を優秀賞とし、結果としてくらしづくり分野からは奨励賞のみということになりました。4つの優秀賞から最優秀賞を決定したのは例年通りです。優秀賞に次いで評価の高かった団体を今年も「奨励賞」としています。



今年の特徴は、長い間地道な活動を続けて来られた団体や小さくはあってもユニークな活動を行っている団体が目立ったことです。今回選にもれた団体も、この結果にめげることなく、次に向けて“いきいき”と活動を続け、新たなことにも挑戦しながら、また応募して頂きたいと思います。また、「学生の部」は、今まで一番多い4団体の応募がありました。いずれの学生も素晴らしい活動をされており、1つに絞ることができず、「ボランティアサークル・ひまわり会」(宇部フロンティア大学短期大学部)と「山口県立大学災害ボランティア実行委員会ぶちボラ YP 勇気」の2つに決まりました。受賞したどの団体もこれをきっかけに、さらに“いきいき”と活動して下さい幸いです。

なお、最優秀賞・優秀賞団体の授賞理由は以下のとおりです。

### ○周南認知症を支える会(福寿草の会) (最優秀賞・山口県知事賞)：福祉分野

1987年から25年間、認知症問題に取り組んでこられた団体で、認知症に関しては、県内でも一番早く団体としての活動を始められたところかと思えます。受賞の理由は、長きにわたり地道な活動を続けてこられたこと、団体構成メンバーが30歳から80歳と、若い方も巻き込んだ活動をしておられること、認知症の方をかかえている家族の支援だけではなく、認知症を正しく理解するための啓発活動、家族の気持ちに寄り添った幅広い活動をしておられることが評価されました。現代社会において、誰もが直面する問題の一つですので、これからも重要な役割を担って頂きたいと思えます。

### ○まま〜ずプラス♪岩国 (優秀賞・朝日新聞社賞)：子育て分野

音楽好きの方が集まり、施設で演奏するというのはよくある音楽グループの活動ですが、この団体は小さなお子さんをかかえているお母さんたちが、そのお子さんたちと一緒にステージに上がったり、場合によってはおぶって演奏活動をしておられるという、ほほえましい姿が評価されました。これからは幼稚園から老人施設まで幅広く活動を続け、人々の心を温かくして頂きたいと思えます。

### ○Yan 山口アートネットワーク (優秀賞・yab 山口朝日放送賞)：地域づくり分野

つくる(文化創造支援事業)、つたえる(情報事業)、つなぐ(参加事業)を3本柱とし、山口市を芸術文化で魅力ある町にし、そこに住む人々が芸術文化と接することによって日々の生活に潤いを感じることができるようにと、幅広く芸術文化活動を展開しておられることが評価されました。又、新しい取り組みを始めた団体への組織づくりや運営に関して助言をする支援活動をしていることも授賞理由の一つです。

### ○小野田在宅介護者の会「とらいぽっど」 (優秀賞・山口新聞社賞)：福祉分野

在宅介護者を支援するために、自分たちで団体を立ち上げ、公的サービスではまかなえないところを会員が個別対応するという独自のやり方でフォローしているところが高く評価されました。また、介護に対する啓発活動の一環として「とらいぽっど介護かるた」を地元の高校生を巻き込んで作成したことも、これからの協働のあり方の一つとして他団体の参考になると思えます。

# 最優秀賞（山口県知事賞）

## 周南認知症を支える会（福寿草の会）

代表者 国兼 由美子（福祉分野／周南市）

### 活動の動機・目的

25年前の発足当時は、認知症に対する誤った考え方や偏見、差別があり、認知症の人やその家族は辛い思いをしていた。介護者が倒れてしまうことも多かったため、認知症介護者同士が、よりよい介護方法を求めて智恵を出し合い、苦労を語り合い、お互いを支え合うことのできる場を作るため発足。少しでも家族の不安や辛い思い、介護疲れ等の軽減につながり、また、広く一般の人々に認知症を正しく理解してもらうことを目的とする。

### 活動の内容

- ①例会（毎月1回）では、午前中に体操、音楽療法、専門家や保健師等によるミニ講演会、食事づくりなど内容を変えて行い、午後は、体験者による話や会員の苦労話・情報交換などを実施。毎回の参加者は20数名、認知症本人の参加もある。翌月の例会の案内状作成や例会で利用するものを用意する準備会を実施。ボランティアを中心に10数名が月1回集まり、その場でも相談や面談などを実施。
- ②個別介護相談を毎月の例会の中で実施。熊毛地域からの電話相談が多くなり、新たに認知症相談会を熊毛で実施。11月に第1回相談会、座談会を開催。その後毎月実施。熊毛地区家族会設立に向けて準備中。個別に相談を受けることで、多くの人の中では話しにくいことも話せるので相談しやすいとの声があり、継続した支援につなげることができた。
- ③山口県と県認知症を支える会連合会主催の「山口県認知症高齢者を考える集い」を周南市で開催。会のPRを兼ねて、同時に会の25周年記念誌を参加者全員に配布。会の25年のあゆみや会員の声（アンケートに答えて）をまとめ、共有。
- ④電話相談実施。会長宅の電話番号を公表し、認知症に関する相談を受けるほか、相談者宅へ訪問支援を行っている。面談日を設け、来てもらって話を聞くこともある。
- ⑤グループホームなどの施設見学や消防署の協力を得て、救命講習を実施。
- ⑥リフレッシュ事業として温泉旅行などを実施。
- ⑦活動費を捻出するために、年2回、地域のバザーや福祉バザーに出店。
- ⑧認知症地域相談員養成研修やキャラバンメイトサポーター要請、キャラバンメイトスキルアップ研修に参加。身障者自立支援チャリティ実行委員会や県認知症を支える会連合会行事や集会等にも参加。
- ⑨認知症サポーター養成研修を実施（年4～5回）。

### これからめざしたいこと

結成25周年を迎え、活動の一区切りとして、記念会報誌を発行した。あゆみを振り返った時に、認知症家族会としてまだまだ取り組んで行かなければならないことに気付かされた。「ひとりで悩まないで、一緒に考えましょう。」を合い言葉に、『誰もが「生きていてよかった」と思える社会にするために』ささやかながらも会の活動を続けていく。



例会（音楽療法）



リフレッシュ旅行（常盤公園・ココランド）

# 優秀賞（朝日新聞社賞） まま〜ずブラス♪岩国

代表者 峯 陽子（子育て分野／岩国市）

## 活動の動機・目的

音楽が大好き、楽器が大好きだけど、通常の吹奏楽団は子どもの手がかかる夜の練習が基本。子どもと一緒に、できれば子どもたちの前で生の楽器にふれあうことができるには・・・と他のママブラス団体を参考にさせてもらい、平日昼に練習、演奏できるサークルを立ち上げた。小さい子どもをもつお母さんの気分転換の場、兼、子どもたちや音楽を楽しみにして下さる方たちに楽しい音楽を届けたいとの思いで活動。

## 活動の内容

週1回（本番前は2回）、平日午前中に子どもも一緒に来て練習実施。子どもたちは走り回ったり、一緒にカスタネットやタンバリンを叩いたり、子ども同士で遊んでいる。同世代の人が多いので、子どもの学校の事や地域の情報等のおしゃべりもはずむ。

訪問演奏も行い、子どもといっしょにステージに上がったり、おんぶしたりして演奏している。時には楽器大好きなお父さんが加わることもある。

平成24年度の主な演奏活動は

- 4月 こども館
- 5月 桜のその
- 6月 室木幼稚園
- 7月 東幼稚園、コープやまぐち岩国ピースコンサート
- 9月 中央公民館びよびよ広場、中央幼稚園、北河内幼稚園
- 12月 クリスマスコンサート（市内幼稚園など4か所）

※東幼稚園では、ファミリーコンサートもプログラムの中に入れた。お父さんがトランペットを吹きながらサンタの格好で登場し、子どもたち2人が加わって（ピアノ・カスタネット）演奏。

どの幼稚園や老人施設に行っても、みんな楽しそうな笑顔で時には一緒に歌ってくれたりして、メンバーもとても元気をもらっている。子どもの体調や学校、幼稚園の行事等で本番当日にお休みすることもあるが、足りない事は他のメンバーでフォローし合っている。

なにより、演奏する自分たちがわくわくして、すっごく楽しい。聞いてくれる人たちが手拍子をしたり、口ずさんだり、身体を動かしてくれたりするとさらに嬉しくなる。

## これからめざしたいこと

子どもが演奏当日熱を出したり、本人が体調不良など、全員が揃うことはまずない状況だが、その楽器は他の楽器で転調して補う。メンバーを増やし、安定的に演奏していきたい。新メンバー大募集中！これからもずっと演奏活動を行っていきたい。



クリスマスコンサート



岩国地域活動平和のつどいにて

# 優秀賞（y a b 山口朝日放送賞）

## Y a n 山口アートネットワーク

代表者 曾田 元子（地域づくり分野／山口市）

### 活動の動機・目的

会員の内数名は、山口情報芸術センター開設時に、文化ボランティア団体市民委員会の第1期市民委員に就任。市民の自主性、創造的な文化・芸術を企画し市民の文化振興に対する意識の高揚を促した。

委員の任期満了後、そこで培った経験を活かし、「山口」に在る文化・芸術を通して、市民が文化・芸術に対して興味・関心・親しみをもち、自主的かつ創造的な活動が行なえるように、アートと、文化施設、市民とまちのネットワークを目指して発足。現在『新しい山口の文化・芸術を創造できる‘まち’づくり』を目的とし、幅広く文化・芸術活動を推進している。

### 活動の内容

山口の地域活性化を図るため、市内に点在するミュージアムや文化施設を市民に身近な‘モノ’へとつなげ、また地元アーティストが山口から全国へ発信できるよう、つくる（文化創造支援事業）・つたえる（情報事業）・つなぐ（参加事業）を3本の柱とした、下記の地域交流文化創造支援事業の活動を行っている。

#### （1）文化創造支援事業（創る）

- ①アーティスト支援事業…地元アーティストの公演や展示を主催する。  
アーティストを市民に紹介し、サポートをする。
- ②教育普及促進事業…ワークショップなど市民が芸術に直接触れる場を企画し提供する。
- ③文化交流事業…文化・芸術を通して、市民交流の場を設ける。

#### （2）情報事業（伝える）

- ①情報発信事業…市民の視点で、文化芸術情報を提供する。
- ②情報提供促進事業…展覧会等の催し、各文化施設の特徴や活用法を紹介する。  
フリーペーパーYAN 創刊号-Vol.1-1-Vol.1.3 発行する他、SNSを利用した「ちょいっといっぷくアート情報」配信して毎週末お薦めのイベント情報を市民に提供している。  
またYanブログ [http://blog.canpan.info/yan/index2\\_0.xml](http://blog.canpan.info/yan/index2_0.xml) で活動を紹介。

#### （3）参加事業（繋ぐ）

- ①参加型事業…ワークショップ、芸術ツアーに参加して体験する。  
文化事業・施設ボランティアに参加する。
- ②鑑賞型事業…美術・舞台・音楽鑑賞  
山口情報芸術センター、山口市会館、秋吉台国際芸術村その他県内外の文化施設や各地域の音楽・美術・舞台鑑賞、ワークショップ、アーティストレクチャー、アートマネジメント講座等に参加。

### これからめざしたいこと

アーティストや市民、他団体、企業、行政による文化芸術の協働による街づくりを構築させ、市民が一緒になって新しく芸術文化を創造し全国へ発信していけるプロジェクトに取り組み、山口の芸術文化のクオリティを向上させたい。また市民が気軽に参加できる企画を増やし、地域に根差した活動を続けながら活動の拠点をもちたい。



着物を甦らせるギャラリートーク



地撮り山口山口

# 優秀賞（山口新聞社賞）

## 小野田在宅介護者の会（とらいぼっど）

代表者 村田 晴美（福祉分野／山陽小野田市）

### 活動の動機・目的

行政と社協が合同で開催する「介護者の集い」に参加していた在宅介護者8名で結成。不安や不満、愚痴等を吐き出すばかりでは何も変わらないことに気付き、在宅介護者の思いを何とかして他の人にわかってもらうため、声を一つにするために会を作った。笑顔の介護をめざしている。

### 活動の内容

「とらいぼっど」は三脚のこと。～3本の脚でしっかりと介護を支えていこう～在宅介護を続けて行くためには、精神力・経済力・介護力が必要不可欠な条件であると実感し、それぞれを1本の脚に例え三脚と名付けた。3本の脚は同じ力で三方向から等しく支え合っていないと三脚は傾き、在宅での介護は続かなくなる。

#### ①介護者を孤立させないために

- 連絡網の作成・配付（見守りネットとしても活用）。困った時、辛い時等、誰とでも電話や連絡ができるようにしている。
- 定例会、懇親会（年2回）開催。情報交換や介護相談がほとんど。皆が耳を傾け、経験者がいろいろな支援制度や介護のアドバイスをを行う。
- 支えてもらって「ありがとうサービス」・・・会員間互助支援  
公的サービスで対応できない内容を当会員が支援する。具体的には、介護者の体調不良、介護が出来ない時のお手伝いや被介護者の緊急入院時のサポート・送迎等。「とらいぼっどサポート隊」が日程調整、サービスを提供する。

#### ②啓発活動として

- 「とらいぼっど介護かるた」の制作・販売  
在宅介護の実情をわかってもらうため制作。介護者同士でしかわからないことも多く、共感してもらったり、未経験の方にも理解してもらいたいとの思い。絵札は山陽小野田市サビエル高校1・2年生の美術部と美術を選択している生徒さんに描いて頂いた。文を読んでも生徒さん達は理解できないとのことで、説明文を添えることとした。
- かるた完成披露イベントを開催。「介護かるたパネル展」や寸劇で、かるたと介護者の会を紹介。
- 講演会、勉強会の開催および参加。
- 介護相談・認知症キャラバンメイト活動への協力。

#### ③活動資金調達のために遊休品バザー開催（年2回）。

#### ④施設見学他。

### これからめざしたいこと

在宅介護の体験者ばかりなので、わかってくれるという安心感が何よりある。「支えてもらってありがとうサービス」はせっかく作った支援体制なので力をいれていきたい。サポート隊をもっと増やすことと会員が作った施設があるので、「とらいぼっど」として会員間互助支援につなげられないか模索中。今後も自分たちができる方法を見つけて活動していく。



とらいぼっど  
介護かるた



懇親会

# コープやまぐち奨励賞

## 肉球生活向上委員会With Wan

代表者 とよた みほこ（くらしづくり分野／山口市）

### 活動の動機・目的

県内某所で独居老人による犬猫の超多頭飼い（100匹以上）現場に関わり、動物福祉の観点から何とかしたいと思った。人間の意識と知識の向上により、ペットたちのQ.O.L（クオリティ・オブ・ライフ）向上を目指し、双方が笑って暮らせる町、山口を願う。

### 活動の内容

①家庭犬しつけ方教室（平成18年度以降より市動物適正飼養推進事業として委託）開催。

1時間の予定が毎回2時間超え。納得いくまで実習され、笑顔で帰られる姿がとても印象的。

②ふれあい訪問

某病院のデイサービスに月1回、わんにゃんを連れてお伺いする。猫さんコーナーが毎回好評で、通所者の心を和ませているのは、大半がもともと飼育放棄などで保護された犬猫たち。

③ワンワン運動会開催

市内の河川敷を場に、ドッグスポーツ（トライアルコースを走る）を毎年秋に開催。

④マナー啓発

○毎年4月に市内200か所以上で巡回開催されている集団接種会場に可能な限り出向く。

○マナー啓発パンフやうんち回収袋を直接手渡しし、装着義務のある鑑札や注射済票の取りつけの為に結束バンドを差し上げている。

○全会場への同行が不可能なため、予防接種済票の入った封筒に予め取り付け説明書と結束バンドを同封させていただき、市内登録・予備含め12,000戸全員配布。毎年同行する中で、注射済票のデザインが可愛らしいものに変更された3年前から装着率がアップされてきたことを実感。家出・迷子も予防接種済票や迷子札装着による早期帰宅が処分数減に結び付くため、今後もさらなる装着率アップへのアドバイスを（削除）していく。

⑤「犬道入門パンフ・肉球通信（ペットとの暮らしにまつわるQ&Aなど）」発行。

⑥啓発ちらし配布

○簡単鑑札の取り付け方

○名札で守れる命があります（行方不明になった時の問い合わせ先、名札の必要性など記載）

○愛犬のこと・今どきのマナーご存知ですか？

⑦保護や譲渡依頼

HP・インターネット・地域情報誌等を利用し、県内外を問わず新しい飼い主さがしをする。

⑧散歩コースクリーン

### これからめざしたいこと

限られたメンバーでの身の丈にあったことしかできないが、「笑う犬猫の生活応援します」をモットーに飼い主さんへの啓発を通して、ペット達の生活レベル向上をめざす。



家庭犬しつけ方教室



ふれあい訪問

# コープやまぐち奨励賞 小金持ちの会

代表者 村岡 桂子（くらしづくり分野／岩国市）

## 活動の動機・目的

主人が定年を迎え、当てにしていた年金が少ないのに驚き、何も知らない自分を自覚し、社会保障やその他生活に密着した保障制度をまず知ることが大切だと気づいた。そこで、男女共同参画のセミナーを受講。それをきっかけに暮らしにかかわる経済や金融の基礎知識を身に付け、家計から無駄をなくそうと会を結成した。一人でも多くの人に得たことを伝えたい。

## 活動の内容

自分たちでテーマを選び、月1回、年に10回のペースで学習会を実施。その時の講師は金融広報アドバイザー、ファイナンシャルプランナー、山口財務事務所所長他。

今年の講座内容は

- 1月 確定申告（医療費控除）
- 2月 社会保障制度（医療保険）
- 3月 生活設計・家計管理の仕方
- 4月 介護保険制度
- 5月 成年後見制度
- 6月 住宅ローンの返済
- 7月 エンドプラン ビフォー&アフター
- 9月 地震保険
- 10月 日常生活のトラブル
- 11月 相続・遺言

難しすぎる言葉に最初は戸惑ったが、何回も同じことを聞くうちに少しずつ理解できるようになった。退職して時間はたっぷりあるので、年金についてわからない中、勉強し、社会保険労務士にチャレンジして合格したメンバーもいる。3人のメンバーは勇気をもってファイナンシャルプランニング技能試験を受け、合格することができた。

## これからめざしたいこと

テーマが幅広く、奥が深いため、皆さんの関心度が薄れてしまう感がある。高齢者が増える中、関心度が深いテーマに絞って深めていきたい。

以前ラジオでPRしていただいたことがあるが、自分たち独自の広げ方をしていないので、広げ方を考えていくことと、こつこつと続け、人の相談に乗ることができるよう、知った事を活かせるようにしたいと思う。



講座の様子



講座の様子

# コープやまぐち奨励賞

## 周東点訳クラブ「ほのぼの」

代表者 沖原 悦子（福祉分野／岩国市）

### 活動の動機・目的

社会福祉協議会の呼びかけにより結成。発足当時は15人程度で高校生から一般までの幅広い会員で立ち上げた。その年の秋、周東町で玖珂郡内身体障害者大会が開かれたのをきっかけに、障害者ふれあい学習点訳活動を始めた。

点訳を通して、視覚障がい者への理解を深めると共に、受講者間（健常者）との親睦を図り、福祉向上（人権・人情・おもいやり）に努める。

### 活動の内容

#### ○点訳講座開催

講座は視覚障がい者と共に、楽しみながら名刺やカレンダー、詩集、童謡集、世界の国旗集、市民憲章等を作成。一般公開とし、周東町全戸にチラシを配布（公民館協力で）し周知した。

送り迎えの道は小道なので、事故のないよう細心の注意を払って、怪我や事故のない安全誘導を心がける。年1回、誘導訓練実践講習会を開催。

#### ○10月文化祭へ参加・活動紹介パネル展示

一般者の理解と興味は「イベントで」と考え、体験交流会を開催。コーナーの飾り付けには、横幕・のぼり・記念作品の作成等を工夫している。呼び込みを笑顔・美声・心使い等をもって行う。呼び込みの手ごたえあり。

#### ○県立点字図書館研修参加

#### ○先進地へ視察、交流を深める

町外ふれあい交流訪問事業として、身体障害者更生施設（柳井市）を訪問。他の先進的な活動をされている点訳団体に赴き、活動交流。

#### ○3月町内生涯学習まつり大会へ参加・展示

#### ○社会福祉協議会の要請にて、地域のお宅に訪問（傾聴・点字学習）

#### ○月2回、自主勉強会を開催（参照 図書「点訳のてびき」／点字・点訳完全マスター等）

### これからめざしたいこと

今後は4月から技術向上のため学習講座を開設していくことと、高校生等への呼び掛けに力を入れていく。また、これまでに作ってきた作品の展示会を行う予定。

全盲者と一緒になって学び、楽しみながら進めることで、皆さん明るくなって、楽しみにされている。会員の視覚障がい者にとって読みやすいようにと、点字版やブレーラーを使った「手打ち」で点訳をしている。地味な作業だが、いつも全盲障がい者を『師』として、コツコツと活動を継続していく。



点訳講座終了後メンバーで



点訳 国旗の本作成

# コープやまぐち奨励賞・学生の部 ボランティアサークル・ひまわり会

代表者 村田 菜由 (福祉分野/宇部フロンティア大学短期大学部)

## 活動の動機・目的

昭和53年に発足したダウン症の子どもたちの発達支援やその家族のサポートを目的とするサークル。自閉症の子どもたちと交流を図り、さらに学生である自分たちにとって、「自分の為であり、それでいて人の為にもなる」という、授業で習った知識と実践を結ぶよい機会となっている。

## 活動の内容

年4回大きな活動を開催。

○公園遠足・・・保護者は見学

近くの公園にみんなででかけ、事前に考えたゲームで楽しい一日を過ごす。

じゃんけんゲーム、体操、シャボン玉遊び等。

○ひまりんぴく (学内で運動会)・・・保護者は見学

パン食い競争、障害走、ボーリングなど。

○クリスマス会・・・保護者は見学

プログラムは

①開会式

②工作 画用紙で作ったケーキ台に、シールや折り紙、絵を書き、自分だけのケーキ作り。

③2年生とのお別れ会・・・一言ずつあいさつ

④昼食・・・保護者がお弁当を用意して下さる。

⑤クリスマスダンス

ちよるるダンス。クリスマスソングをピアノを弾きながら歌う。

⑥おたのしみ

サンタの格好をした学生が、保護者からのプレゼントをみんなに配る。 閉会

○キャンプ・・・保護者が主体に実施。企画は自分たちも考えて協力

※いずれの行事も準備活動は1カ月半位前から参加者集約や、プログラム作成、お菓子、プレゼント用意、ゲーム備品の買い出し等行う。

※学生はワーカーとして1人に1人が付くようにしている。どうしたら子どもたちが興味をもって参加してくれるのか、子どもたちが一つでも多く、思い出に残るようなことができるのか、日々試行錯誤を繰り返している。

## これからめざしたいこと

笑顔で楽しんでくれることが一番楽しい。次の企画の話をするとても喜んでくれる。2年間と学生生活が限られているので、時間が足りないのが現状だが、4つの行事だけでなく、増やしていきたいと思う。障害に合わせてどのくらいできるのか探り、マンネリ化しないようにお菓子作り等、子どもたちが今までしたことのないような新鮮なことを企画していきたい。



クリスマス会



デイキャンプ  
そば作り体験

# コープやまぐち奨励賞・学生の部

山口県立大学 災害ボランティア実行委員会ぶちボラY P 勇気  
代表者 遠藤 嵩大 (地域づくり分野/山口県立大学)

## 活動の動機・目的

「東日本大震災」を受けて、学生が「被災地へ微力だけど力になりたい」という思いを形にするために立ち上げた。

- ①東北地方のニーズを大切に活動を行い、東北地方の方々に喜んでいただくとともに、復興に貢献すること。
- ②山口県各地で行われる地域イベントに参加、ホームページ等を活用し、東日本大震災やボランティア活動の啓発活動を行うことで、意識風化を防ぐこと。
- ③活動での学びを活かし、地域住民と連携し、地域の防災意識の向上に努めること。

## 活動の内容

これまで、「山口県からできること」、現地の声を集めるということを意識し活動してきた。特に現地ニーズに合わせた様々な物資支援活動を行っている。

- ①東北地方のニーズを大切にボランティア活動
  - 先生方とともに現地調査と写真洗浄のボランティア活動。
  - 山口市のボランティア団体「じゃがいもの会」とともに活動（陸前高田市へ）。
  - 県の団体や岩手県立大学生と連携し、お茶っこサロン等の交流ボランティア。
  - 「まごころバケツプロジェクト」活動。
  - シュシュ（髪留め）とメッセージ付きうちわを岩手県の仮設住宅に送った。
  - アロマハンドトリートメント活動。
- ②東日本大震災の意識風化を防ぐ活動
  - 山口国体や防府・美祢市の地域イベントに出展し、パネル・写真展等を用いての広報啓発活動開催。現地での活動状況や現地の皆さんとのふれあい状況を展示。
  - 『大学生発いのちを守る防災と災害ボランティアフォーラム』を主催。山口市民、中国・東北地方の各県立大学生と共に、緊急時に大学間で協力しあいやすくなるための大学間ネットワークの構築や地域住民と一緒に、防災について学びあい、地域の防災意識向上を目指した。
- ③地域住民と連携し、防災意識向上のための活動
  - 防災時に役立つぶちボラオリジナルの『防災豆知識Book』作成。
  - 上折本地区、西恋路地区避難訓練参加。 ○宮野小学校防災キャンプに参加。
  - お仕事応援計画『ふぐろプロジェクト』協力。 ○春休みの活動報告会。
  - グローバル学生交流事業において中国・韓国留学生への啓発活動。
  - 『被災者の仕事づくりといきがい支援“まけないぞう”プロジェクト』に協力。

## これからめざしたいこと

啓発活動に取り組む中で、意識の温度差を感じるようになってきた。その中で誰にも興味をもってもらえるような工夫が必要。言葉の説明だけでなく、写真や防犯グッズ・非常食の試食など、気軽に災害や防災に興味をもたれるよう取り組む。

今後、まだやれることはたくさんあると思うので、情報収集をしっかりと、地域と一緒に「山口県からできること」のテーマで今後も頑張っていく。



メッセージ付  
うちわ作成



宮野小学校  
防災キャンプ

# コープやまぐち組合員賞

## 豊田どんぐりの会

代表者 小野 ゆかり (子育て分野/下関市)

### 活動の動機・目的

子ども支援センターが主催する未就園児サークルが月1回開催されていた時、そこに参加されたお母さんたちで別に立ち上げた。豊田町は近所に同世代の子どもがいない家庭も多く、集団社会の入り口を体験したり、親子でレクリエーションを楽しむことを目的としている。また、母親同士が子育てに関する情報交換の場にもなっている。

### 活動の内容

毎月1回、西市子育て支援センターにおいて、親子でレクリエーションをしている。

- 4月は年間予定作成。
- 6月は段ボール工作で車や電車を作って遊ぶ。
- 夏は水遊び。
- 9月は近くの梨園へ梨狩りに行く。自然の中で楽しんでいる。
- 秋は近くの神社へどんぐり・まつぼっくりなどを拾いに行く。
- 12月はクリスマス会を開催している。
- 年度末には、記念になるようにと、写真立てを作っている。

1年間の計画などすべて自分たち参加者である母親が考え、時には、支援センターの方の助言も頂きながら実行している。お弁当を持ってきて、お昼をはさんでゆっくりできるので、母親同士の情報交換も楽しくしている。

会の行事のお知らせは、支援センター便りの中に掲載してもらったり、下関市のこども家庭課の子育て支援事業の“ちゃいるどねっと”情報誌に掲載していただき、この会をアピールしている。

### これからめざしたいこと

人数が集まらなかったり、準備が大変なこともあるが、子どもたちの楽しそうな様子をみたり、お母さん同士でゆっくりお話できるので、今後も楽しく続けていきたい。子どもが少ない地域なので、この集まりを大切にしていきたい。



落ち葉やどんぐりを画用紙に  
はり絵したよ



なし狩りにいったよ

# コープやまぐち組合員賞 せせらぎ

代表者 井上 和枝 (福祉分野/岩国市)

## 活動の動機・目的

ある結婚式に出席した際、新婦の友人として、難聴の方がたくさん来ておられ、彼らは楽しそうに手話でお話をして、手話歌を披露されていた。その様子を見て、難聴で困っている妹と一緒に手話を始めた。それまでの妹は耳のことで暗くなりがちだったが、手話を覚えて明るく前向きな生き方をするようになった。職場や街角で手話が必要な人に出会ったら助けてあげたい・・・いつもその思いで日々精進している。

## 活動の内容

○定例会を週2回、2時間開催。

メンバーで難聴の方が講師になり、手話養成講座の本や、ビデオをプロジェクターで大きく映して手の動きを見ながら皆で学習している。

○文化協会発表会への参加。

手話歌、市民憲章を披露。

○ピュアフレンズ交流会の開催。

岩国地域の手話サークル6団体が集まって、毎年1回持ち回りで交流会を開催。ゲームや出し物で楽しんでいる。

○コープピースフェスタ (岩国地域組織委員会主催の平和活動) への参加。

手話とリコーダーのコラボで「ふるさと」を披露。

○錦苑訪問

手話歌、手話劇上演

○サロン、老人ホーム等で簡単な手話歌を皆さんと一緒に行う。

田舎で生活しているので、年老いて難聴になっている人はたくさんいるが、手話のわかる人はほとんどいない現状。少しずつ皆さんと一緒にやっている。

○他手話サークルとの交流会 (平成24年度) の開催。

岩国のサークルの方たちとこんにやくづくりや調理を通じて楽しく交流している。難聴の方が多いグループなので、手話での会話を心がける。

○グループで小旅行 (萩) の実施。

## これからめざしたいこと

難聴者との交流が少なく、読み取りが身に付かないのが現状。難聴の方たちと意思の疎通をもっと図れるように腕を上げていくことをめざしていく。



岩国手話サークルと交流会



文化協会発表会